

「お薬カレンダー」や便利グッズで、「服薬支援」が充実

薬は医師の処方どおりきちんと服用しないと効果が得られません。薬の味が苦手だったり飲み忘れていたりといった悩みにたいして、飲みやすくしてトラブルを防ぐ薬剤師の取り組みが行われています。

薬が苦手な子どもにも飲めるよう、味を工夫する薬局の事例としては、苦みをなくすために、水の代わりにアイスクリームやプリンなどの食品と一緒に薬を飲むことをすすめています。組み合わせによっては体に悪い影響が出る恐れもあります。製薬メーカーに聞いたり、論文を調べたりして、問題がないことを確認の上で味見をするとよいでしょう。

薬ごとに相性の良い食品を表にまとめてみると…

粉末の抗生物質とヨーグルト

容器のヨーグルトの真ん中に薬を入れて、包むようにして飲み込むと薬の味がしません。しかし、牛乳では苦みが口に残ります。

◎薬を飲むとき、使うときの便利グッズとは…

肩や背中に湿布を貼る補助具などがあります。

割り箸とスポンジを使い、点眼液の容器をはさんで

使う道具(病気で手が震えていても点眼しやすい)や、

背中に軟膏を塗る道具を薬剤師が考案して提案している例もあります。



◎認知症で高血圧の薬を飲み忘れてしまう人には…

複数の薬を1つの袋にまとめる「一包化」。朝昼晩ごとに日を入れて、2週間分の薬を入れるポケット付きの「お薬カレンダー」にセットして、食卓から目に入る場所に置くなどがおすすめです。



院長のひとりごと

薬を飲みやすくしたり、飲み忘れのトラブルを防いだりなど、薬剤師さんがいろいろな取り組みをしている事例が紹介されました。まずは子どもに飲ませる粉末の薬ですが、粉末って味がよく分かるので、嫌がる時期もあって大変ですよ。

ある薬局では、組み合わせに問題がないことを確認した上で、実際に味見をしているそうです。ヨーグルトや練乳、アイスクリームなど、組み合わせによる飲みやすさを◎や○、×などの表にして提案しているそうです。

素人判断では薬の効果に支障が出ることもありますので、専門家が提案してくれている方法であれば、安心して試すことができそうです。

一方、高齢者の薬の飲み忘れを防ぐために、複数の薬を1包にまとめたり、日付と朝昼晩についても大きく表示といった工夫をしてみましょう。